

■データベースの作成

会話マナーに違反すると思われる単語や、誤まった日本語に関する音素列-文字列の組み合わせのデータベースを作成する。

例として口癖のデータベースを挙げる。人がプレゼンテーションにおいて発することが多い口癖をリストアップし、アルファベットを用いた音素列により表現する。例えば「えー」という口癖は「e:」、「えっと」という口癖は「e q t o」と表現する。さらに、入力音声と音素列表現の組み合わせに対して、口癖出現頻度（確立）を考慮した重み付けを行う（この音素であればこの単語である可能性が高い、という確立）。

■特許情報

「音声認識装置、音声認識方法及びコンピュータプログラム」
特願2016-135355号
特許権者：学校法人立命館
発明者：西原陽子
山西良典
福本淳一

■システム概要

1. 音素認識

入力された音声を音声認識機能により音素列に変換する。

2. 文字列化

データベースを用いて音素列を文字列（ひらがな、意味のある単語ごとに分ける）に変換する。重み付けを考慮して文字列化されるため、文字列化の精度が向上する。

3. 判定

作成したデータベースと入力された音素列-文字列とを比較し、意味のない口癖を検出した場合に警告音が出力される。

意味のない口癖を認識するよう、単語と単語の間や、音素間に入る口癖を検出するようにプログラムを開発した。（必要不可欠な口癖は検出しない）

プレゼンテーション等の練習時にほぼリアルタイムで口癖や方言を知らせることが可能となり、プレゼンテーションスキルを向上させることができる。

